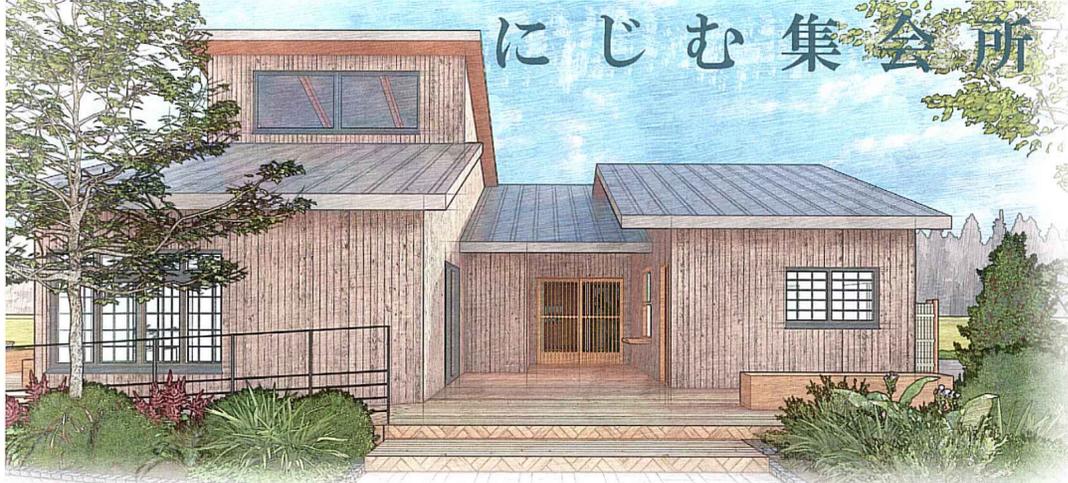


にじむ集会所



近年、近所同士のつながりが薄れ、同じ集合住宅に住んでいても挨拶で終わり、それ以上の交流が生まれにくい状況がある。とくに若い世代にとって集会所は、自治会など「用事がある人が行く場所」として心理的な距離が生まれやすい。そこで本計画では、目的がなくても気軽に立ち寄れるようにし、交流のきっかけが生まれる場を目指した。外部の広場は春日大池の輪郭を参照し、うねりのある形で人の動きや滞在を受け止めるように計画した。広場からは建築物に設けた誰でも使えるデッキへ連続させ、内外が緩やかにつながる半屋外の居場所をつくる。集会所はデッキに面して大きな開口部を設け、内部の活動の気配が外へ滲み出る計画とすることで、「少しだけ寄ってみよう」と思える参加のハードルを下げた。外から見える・近づける・座れるという段階を用意することで、世代を問わず気軽に利用できる集会所を目指している。

内部空間は、古くから親しまれてきた和室を取り入れた。囲碁将棋などの活動とも相性がよく、日本の住宅に多く見られるリビングから繋がる和室のような配置関係とすることで、初めて訪れる人にも親近感が湧きやすい空間構成とした。さらに内部には日本庭園を連想させる坪庭を設け、人の少ない場所で一人になって落ち着いたり、考え事をしたりできるこもれる居場所としても機能させた。緑・広場・デッキ・開口部・坪庭を連続させ、交流にも一人の時間にも対応できて地域の暮らしの中に自然に根づく憩いの場を提案する。

利用者へ
忙しい日も、なんとなく気分転換したい日も、ここはふらっと来ていい場所です。外から覗けて、座れて、入れる。そんな段階を用意しました。緑に包まれながら、地域のつながりが無理なく生まれる場になればいいと思います。

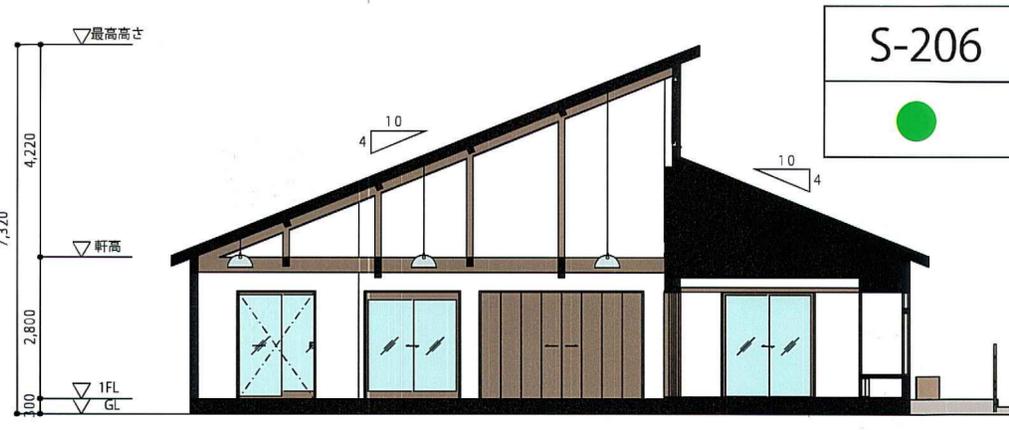


建物の段差を極力なくし、移動のしやすさに配慮した。建具は車椅子の通行を想定し、有効開口寸法を900mm確保できる引き戸を採用し、通りやすいようにした。これにより、高齢者やベビーカー利用者を含め、幅広い利用者がストレスなくアクセスできる環境とした。

脱炭素社会に向けた配慮について
脱炭素社会に向けた取り組みとして、外壁仕上げにサワラ板張りを採用した。木材を用いることで環境負荷の低減を図るとともに、部分的な張替えが可能でメンテナンスが容易なため、長く使い続けられる外装計画とした。また、サワラはヒノキに比べて安価であることから、環境面だけでなくコスト削減にも配慮した。

- 仕上げ
- 外壁仕上げ サワラ板張り
 - 屋根材 ガルバリウム鋼板
 - 構造 木造
 - 基礎 べた基礎

室名	床面積
集会室①+集会室②+物入れ (式)24.84+49.27+5.59	79.70㎡
湯沸室(キッチン)	13.04㎡
男性用トイレ	3.24㎡
女性用トイレ	1.66㎡
洗面所	2.48㎡
多機能トイレ	5.18㎡
倉庫	5.80㎡
玄関+廊下 (式)13.46+4.97	18.43㎡
巡回管理室+トイレ (式)11.38+1.66	13.04㎡
その他(軒の出)	6.04㎡
合計	148.61㎡



A-A 断面図 S=1:100



西立面図 S=1:100



平面図 S=1:100



南立面図 S=1:100



配置図兼屋根伏図 S=1:200